

令和7年度
市政運営方針

米 沢 市

令和7年市議会3月定例会の開会に当たり、私の市政運営に関する所信の一端と新年度の予算概要及び主要施策について御説明申し上げます。

1 はじめに

一昨年の上市長就任以来、私は「好循環の米沢」を市政運営の中心に掲げ、施策を推進してきました。最初の取組として、子育て世代の経済的な負担軽減とおいしい給食の提供を進めるため、昨年4月から小中学校給食費の完全無償化を実現しました。喫緊の課題である地域医療の維持については、市立病院の医師を増員したほか、小児科の開業医不足に対処するため、診療所開設を支援する補助制度を創設しました。本年1月からは当面の間、市立病院小児科の非紹介加算料を徴収しないことにしました。乗合タクシーの運行エリアを拡大するとともに、除雪車運行管理システムの導入による除雪状況の見える化ときめ細かな除雪体制の構築等を進め、誰もが暮らしやすいまちづくりを推進しました。官民が連携した新たな魅力を創出する取組として、戦国をテーマにした「第1回よねざわ戦国花火大会」を開催したほか、「すき焼きのまち米沢」として米沢牛の消費喚起キャンペーンを展開しました。

「好循環の米沢」に向けた歩みを着実に進めた一方、10年前の平成27年に536人であった出生数は、昨年358人まで減りました。少子化に伴い、人口減少が深刻化しています。原油・原材料価格の上昇に伴う物価の高騰をはじめ、自然災害の頻発化・激甚化等を受け、市民生活や地域経済を取り巻く環境は厳しさが一層増しています。昨年末には市民の食を支えてきた地場スーパーマーケットが営業を停止し、市内に大きな衝撃が広がりました。

私たちは今、危機の時代に生きています。このまま放置すれば先人が築き上げた歴史や文化が喪失し、地域への誇りと愛着も失われるおそれがあります。変えるのは今しかありません。ひと、モノ、お金が出ていくまちから、集まるまちへ。危機をチャンスに転換し、こどもの数が増え、市民の所得が増え、誰もが暮らしやすく幸せを

感できる「好循環の米沢」に向け、新年度も次の三つの重点的な取組を推進してまいります。

第一に、子育て・教育の米沢の実現です。県立中高一貫教育校の本市への設置に向け、官民一体による要望活動と市民意識の醸成に取り組みます。本年4月に第五中学校を第一中学校に統合するとともに、来年開校する南成中学校と北成中学校、そして、再来年開校する広幡・六郷・塩井の各小学校を統合した小学校の施設整備や開校準備についても着実に実施することで、小中学校の再編統合を推進します。来年4月に供用を開始する学校給食共同調理場の整備を進めるとともに、地元産食材を使用した安全安心な給食を安定して提供できる体制づくりに取り組みます。放課後児童クラブ利用料の無償化に向けた制度設計を行うなど、子育て世代に選ばれるまちを目指し、子育て・教育環境を県内最高水準に引き上げてまいります。

第二に、稼ぐ力があり市民の所得が増える米沢の実現です。新産業団地の開発予定地を米沢北インターチェンジ周辺に決定しました。新年度は基本計画を策定し、若者の定着につながる企業の誘致に向け、整備内容の具体的な検討に入ります。米沢商工会議所が新会館を建設することに伴い、館内に開設する（仮称）米沢地域産業振興センターの整備を支援するとともに、県が主体となって運営する（仮称）イノベーション連携拠点において、県、山形大学工学部、米沢商工会議所、本市が連携して新たな産業を創出し、質の高い雇用の場の確保と高度産業人材の育成に取り組みます。今年度は英国人教師チャールズ・ヘンリー・ダラスが米沢牛を横浜に連れ帰り、全国に広まるきっかけとなってから150年の節目です。この米沢牛をはじめとした米沢産品を全国に売り込み、儲かる農と食を実現します。ふるさと応援寄附金については、昨年4月から12月までの寄附額が約13億2千万円であり、令和6年度の目標に掲げた20億円の達成は難しい状況にあります。新年度こそ、まずは20億円の目標を達成するため、今年度強化した体制の下、生産者等の理解を得ながら米をはじめとする返礼品の充実を図るとともに、効果的な広告展開等を行います。本市経済が発展し続け

るためには、産学官金が手を取り合い、地域内で経済が循環する仕組みを構築しなければなりません。学園都市としての強みを活かし、市内大学との連携も一層強化しながら、「ものづくりのまち」としての持続的な成長を支え、地域経済を発展させてまいります。

第三に、誰もが暮らしやすい米沢の実現です。4月から乗合タクシーの運行エリアに窪田・塩井地区の全域と愛宕の上長井地区を加えるほか、万世地区においても公共交通のあり方の検討を進めます。夏頃までに市街地における「まちなか定額タクシー」の運行を開始します。これらの取組により、市内の大部分の地域で、市民の通院や買い物を支える公共交通網が整備されます。地域医療を維持するため、診療所開設支援補助金の対象に、これまでの小児科のほか、耳鼻咽喉科、泌尿器科を追加し、開業医の誘致を強化するとともに、「地域医療を守り育てる条例」を制定し、市民をはじめ全ての関係者が役割を果たしながら、協力して地域医療を支えるための意識醸成を図ります。市立病院の医師確保についても、引き続き私が先頭に立って大学医局等への要望活動を行うなど、市民が安心して医療を受けることができる環境を整備してまいります。

新年度は本市の最上位計画である新総合計画を策定し、令和8年度から10年間の新たなまちづくりの方向性と3年間の具体的な事業を示す年となります。人口減少に歯止めをかけ、明日の米沢を築く「ひとづくり」を進め、多様性のある社会を創り上げていくとともに、市民の幸福度を向上させていかなければなりません。先人から受け継いだ米沢をより良い形にして、次の世代に引き継いでいく。今を生きる私たちの責任です。市民の皆様の英知と力を結集して道筋を示し、米沢再生を実行してまいります。

2 新年度予算案の概要

次に、新年度に向け編成した予算案の概要について、御説明申し上げます。

新年度予算には、本市の発展に向けた更なる一步を踏み出すという思いを込め、「好循環の米沢 ステップアップ予算」と命名しました。

新年度の一般会計予算総額は、対前年度当初予算比で66億1千万円、15.0%増の506億4千万円を計上しました。前年度よりも大幅な増となっており、500億円の大台を超え、過去最高の予算規模となっています。

歳入歳出それぞれについて御説明いたしますと、歳入におきましては、今年度の収入見込額や景気動向等を勘案して、市税や地方交付税は増収を見込みつつ、国・県支出金の確保や元利償還金の一部が地方交付税で措置される有利な地方債の活用等で財源確保を図りました。歳出におきましては、既存事業の見直し等のスクラップに取り組みながら、まちづくり総合計画の締めくくりの年として第5期実施計画に掲げた施策を着実に推進するとともに、「好循環の米沢」の実現に向けた施策を更に進めるために必要な事業費を計上したところです。不足する財源については、財政調整基金等の基金の取崩しによって対応することとしました。

特別会計は、9会計の合計で約183億7千4百万円、企業会計は、3会計の合計で約182億9千6百万円を計上しました。

3 令和7年度の主要施策

次に、新年度に取り組む主な施策について、まちづくり総合計画の基本目標の柱に沿って御説明申し上げます。

(1) 挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり

初めに、挑戦し続ける活力ある産業のまちづくりについて申し上げます。

商工業については、経済環境が変化し消費が低迷する中で、本市経済を支える中小企業の経営基盤の安定と活性化を図るため、新商品開発や販路拡大等に対する支援を強化します。持続可能な次世代繊維産地を目指す「米沢ファッションベースキャンプ

プロジェクト」等を実施し、高付加価値なものづくり産業を実現します。4月に開校する米沢鶴城高校の地域コンソーシアムを引き続き活用することで、若者の地元企業への就職促進や産業人材の確保・定着を図ります。

観光業については、観光コンテンツの磨き上げを進め、地域資源を活かした観光の活性化を推進します。広域観光の中心となる道の駅米沢の空調設備の改修や上杉記念館の塀の新設により、観光客の受入環境の充実を図ります。

農業については、青果物地方卸売市場の民設民営化に向け、施設の再整備を支援し、流通体制の構築を進めます。有機農業を推進し、農産物の付加価値を高めるとともに、米沢牛をはじめとした畜産物のブランド力の向上に努めます。深刻化する有害鳥獣被害に対し、体制の強化と猟友会への支援の拡大に取り組み、地域が一体となった実効性の高い対策を行います。

林業については、目指すべき森林と木材産業の方向性を明確化する森林長期ビジョンを策定する準備を進め、100年後を見据えた森づくりを推進するほか、地元木材を使用した住宅建築に対する支援について、子育て世帯等への補助を拡充し、地元木材の更なる利用促進を図ります。

(2) 郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくり

次に、郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくりについて申し上げます。

学校教育については、デジタル学習ツール等のICT機器を活用したGIGAスクール構想を更に進めるとともに、不登校等の児童生徒への支援、外国語指導講師の派遣による外国語教育の充実等、より良い教育環境の創出と教育の質の向上を目指します。小学校におけるプール授業の一部を民間事業者に委託し、効果的で安全な水泳指導を実施するほか、令和8年度からの部活動の地域展開に向け、実証事業を推進し、こどもたちにとって望ましい持続可能なスポーツ・文化活動環境を構築します。

社会教育については、戦後80年記念事業による講演会や展覧会等を通し、次世代

を担う若者に戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ機会を提供します。中・高校生を対象に「命の尊さを学ぶ講座」を引き続き行い、性に対する理解を深めるほか、米沢鷹山大学をはじめとした質の高い生涯学習の機会の充実を図ります。

文化の振興については、国指定史跡上杉治憲敬師郊迎跡の保存修理工事を継続するとともに、新たに国宝紙本金地著色洛中洛外図の保存修理、国指定史跡舘山城跡の保存活用計画の策定に取り組み、本市の貴重な文化財を保存し、地域資源として活用します。

スポーツの振興については、スポーツ施設の計画的な修繕等を実施し、スポーツ環境の充実に努めるとともに、引き続きFUN+WALK（ファンプラスウォーク）推進事業や市民が気軽に参加できるスポーツ教室等を行うことで、スポーツに親しめる機会の拡大を図ります。

(3) 子育てと健康長寿を支えるまちづくり

次に、子育てと健康長寿を支えるまちづくりについて申し上げます。

子育て支援については、民間保育施設の改築を支援するとともに、再来年開校する広幡・六郷・塩井の各小学校を統合した小学校の施設整備に併せ、放課後の安全安心な居場所となるよう放課後児童クラブの新設に向けた準備を進めます。妊娠期から始まる子育て家庭への切れ目のない経済的支援と伴走型支援を実施するほか、支援を必要とする家庭に対し、産後ケア事業の利用上限回数を拡大するとともに、食料品等を配布するフードパントリー事業を行います。婚姻率の低下が見られる中、総合的な結婚相談窓口として「よねざわ結婚支援センター」を新設し、婚活カウンセラーやお見合いコーディネーターを配置するとともに、民間事業者と連携して新たな婚活イベントを開催するなど、結婚支援体制の充実を図ります。

健康長寿の推進については、薬局での減塩指導を新年度から本格的に実施するほか、個別健診の呼吸器検診受診者に対し、肺機能の低下から起こる慢性閉塞性肺疾患

(COPD)に関する質問票によるスクリーニングを行い、重症化の予防に取り組みます。定期接種に追加される带状疱疹ワクチンと接種期間が1年間延長されるHPVワクチンのキャッチアップ接種について、対象者が接種機会を逃さないよう周知に努めます。

高齢者福祉については、介護予防教室の新規参加者に対し、受講終了後に新たにフォローアップ教室を開催することで、セルフケアの定着と住民主体の通いの場での活動継続を支援します。認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるまちを目指すため、引き続き全ての地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、認知症の方やその家族に対する相談支援や社会参加の取組を進めます。

地域福祉については、ひきこもりの実態把握に努めるとともに、「就労体験・就労訓練先の開拓・マッチング事業」等により就労や社会参加を促進します。複雑化・多様化している課題に対し必要な支援が行えるよう、高齢者、障がい者、生活困窮者といった対象者の属性に関わらず重層的な支援ができる体制の整備を進め、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指します。

医療環境については、市立病院において医師や看護師を目指す学生に対する奨学資金の貸付や薬剤師に対する奨学金返還の支援に加え、院内保育所での夜間保育の実施等による働きやすい環境整備を行い、医療人材の確保に向けた取組を推進します。救急医療、周産期医療、小児医療等の地域に必要とされる医療や高度専門医療を市立病院で提供しながら、三友堂病院を中心とした回復期医療・在宅医療を担う施設との連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に寄与するよう取り組みます。

(4) 自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくり

次に、自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくりについて申し上げます。

住環境の整備については、空き家問題が深刻化しているため、適正に管理されていない空き家の所有者等に改善を促すほか、空き家・空地利活用事業を継続するとともに、危険な空き家については、略式代執行や官民連携による解体を実施します。市営住宅の改修や住宅リフォームの支援等に引き続き取り組み、安全で良好な住環境づくりを進めます。

道路の整備については、市道や橋りょうの計画的な改良、補修等を実施するほか、県が実施する都市計画道路万世橋成島線の整備に向けた取組と歩調を合わせ、都市計画道路石垣町塩井線の測量設計等を行います。国道121号の高規格化や国道287号米沢川西バイパスの早期開通についても、引き続き関係機関に強く働きかけていきます。

公共交通については、市民バスの循環路線の車両を1台更新するほか、学園都市線の更なる利便性向上に向けたニーズ調査等を実施します。山形新幹線の福島・米沢間トンネル整備の早期事業化、JR米坂線の復旧に向けた取組についても、国や県、沿線自治体と連携して推進します。

上水道については、令和8年度の舘山浄水場の廃止に向け、笹野浄水場から受水するための施設整備を完了させます。避難所等の重要給水施設までの配水管の耐震化を計画的に進めることで、安全安心で良質な水道水の安定供給を図ります。

下水道については、雨水出水浸水想定区域を指定し、内水浸水リスク情報を提供します。下水道使用料の改定に向けた取組を進め、下水道事業の効率的で持続可能な事業経営を実現することで、安定的なサービスを維持します。

環境対策については、米沢牛の生産・供給体制全体での脱炭素化や再生可能エネルギー・省エネルギー設備の設置支援等の取組を通じた広域的な枠組による国の脱炭素先行地域に選定されることを目指します。2050年のカーボンニュートラルを実現するため、再生可能エネルギー導入に関するゾーニングマップを地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に盛り込むとともに、第4期環境基本計画を策定します。

(5) 安全安心に暮らせるまちづくり

次に、安全安心に暮らせるまちづくりについて申し上げます。

災害対策については、防災士の資格取得に対する支援を行い、地域における防災のリーダーを育成するとともに、自主防災組織未結成の町内会等も含め、コミュニティセンター等の単位での連合組織の設立を働きかけるほか、防災教育や避難所開設訓練を実施することで、災害に強いまちを目指します。県とともに防災行政無線の衛星通信システムを更新するほか、消防団における軽トラック型資機材搬送車等の整備を進め、地域防災力を強化します。

消費者被害や犯罪被害の対策については、消費生活相談の体制を維持するとともに、(仮称)消費者教育推進計画を策定し、環境の変化に対応した継続的な消費者教育を実践するほか、凶悪な強盗犯罪等が全国で増えていることから、警察や関係機関・団体と連携を図りながら、犯罪被害に対する啓発活動、公衆街路灯の設置・管理に対する支援を引き続き行います。

雪対策については、昨年導入した除雪車運行管理システムによる除雪車の稼働状況を検証し、より効率的で適正な除雪体制の推進を図ることで、安全な道路交通の確保に努めるほか、除雪オペレーターを育成するための支援を充実させ、雪に強いまちを目指します。

(6) 持続可能なまちづくり（協働・行政経営）

次に、持続可能なまちづくりについて申し上げます。

交流の促進については、国際交流の施策として、国際交流員を増員し、増加する在住外国人への生活支援を行うとともに、市民の多文化共生に対する意識の啓発と醸成に取り組みます。移住・定住の施策として、東京圏から県内企業に就職する学生を支援するため、就職活動時の交通費と就職時の引越し費用の補助を実施し、若者の定住・定着を図ります。

地域づくりについては、令和8年度の広幡及び塩井コミュニティセンターの開館に向け、建替事業を推進するほか、住民自らが考えて地域課題の解決に取り組む組織を形成するため、先進地視察やワークショップ等を実施します。

市政情報の発信については、「広報よねざわ」の配付作業の負担を軽減するため、発行回数を月2回から1回に変更します。LINE等の活用を進め、タイムリーな情報発信に努めるとともに、デジタルマーケティングの知識やノウハウを習得する研修等を行い、各種SNS等のデジタルツールの活用を強化します。

健全な行政経営については、公共施設等総合管理計画の個別施設計画を改定するとともに、地域の貴重な財産である旧学校施設の民間事業者等による利活用に向けた取組を進め、効率的な管理・運営と有効活用を推進します。

4 おわりに（結び）

「対話と実行」——。市長としての私の行動の基軸です。就任以来、時間の許す限り、市民の皆様、市内事業者、福祉施設、農家の方々、学生のみなさん、お一人おひとりと対話を重ねてまいりました。また、市外の有識者とも意見交換を重ねてまいりました。自ら現場に足を運び、声をお聴きし、決断する。先送りせず、できることから素早く実行する。「信なくば立たず」です。就任二年目は、更に本市の情報発信力を高め、市民の皆様から信頼される「顔の見える市政」を実行してまいります。

みなさん、課題は山積、大きくなっているのも事実です。少なくとも今後10年以上は本市の人口の減少は続きます。しかし、みなさん、危機はチャンスです。ここ米沢の先人たちは、これまで幾多の危機を乗り越え、改革に挑み、次世代の発展につなげてきました。

みなさん、市民一人ひとりが心身ともに健康で、全ての人に居場所と出番があり、幸せを実感できる「好循環の米沢」を実現しようではありませんか。議場の議員各位はもとより、市民の衆知を集め、力を合わせれば、必ず実現できる。本市のあらゆる

主体が「自分ごと」としてまちづくりに参加し、お互いが連携することで、危機をチャンスに変えることができると確信しております。こどもたちに自信をもって、笑顔で誇ることのできる「好循環の米沢」を実現するため、誠心誠意、力を尽くしてまいります。

議員各位をはじめ、市民の皆様の温かい御理解と御協力を心からお願い申し上げ、市政運営方針といたします。